

南風原の民話

南風原には遙か遠い昔から伝わる先祖の教えや民話が数多く残っています。

絵：新垣 正宏

Haebaru Folktales

Haebaru preserves the lessons and folktales passed on to us long ago from our ancestors

羽衣伝説【宮城(みやぐすく)】

今から300年以上も昔のこと、宮城に大国子(でーこくしー)という人が住んでいました。ある日、野良仕事の帰り、どこからともなくいい匂いが漂ってきました。不思議に思いあたりを見回すと、御宿井(うすくがー)で美しい女の人が長い髪を洗っていました。あまりにも美しいのでしばらくみとれていましたが、やがて木の枝にかかっているきれいな衣に気づきました。大国子はこっそり近づきその衣を盗み、大急ぎで家へ持ち帰り、高倉に隠してしまいました。

大国子が御宿井へ戻ると、女はしくしく泣いています。声をかけると「髪を洗っている間に着物がなくなってしまったのです。これでは家に帰れません」と泣きながら言いました。大国子が「それでは着物が見つかるまで私の着物を着ていなさい。私の家はすぐ近くだからそこで休んでいなさい」と誘いました。

その後、二人は仲良く暮らし、やがて子供も生まれました。ある日、女は子供たちが歌っている子守唄を聞いて、羽衣が隠してある場所を知ります。羽衣を見つけて羽織ると、ふわっと空に舞い上がり、どんどん天高く遠ざかって行きました。それを見た子供たちや村人たちは「くまどおー!くまどおー!」(ここだよ、ここだよ)と叫びながら追いかけてきましたが、女の姿は与那原の久場塘(くばどう)で消えてしまったそうです。御宿井には、今でも女のジーファー(かんざし)が落ちていると伝えられています。



御宿井(ウスクガー)

琉球石灰岩でできた井戸で、羽衣伝説が言い伝えられ、以前は生活用水として使用されていました。現在では年中行事の際の拝所(うかんじゆ)として大事に守り継がれ住民の生活に密着しています。



Legend of the Kimono of Feathers【Miyagusuku】

Over 300 years ago there lived a man named Dekokushi in Miyagusuku. One day, on his way home from working in the fields, he found a wonderful scent drifting through the air from out of nowhere. He looked around in wonder and saw a beautiful woman washing her long hair at Usukuga well. She was so beautiful that he found himself fascinated by her beauty. After some time, he noticed her beautiful kimono draped over the branch of a tree. Dekokushi quietly crept up and stole the robe. He hurriedly brought it back to his home and hid it in the storehouse.

When Dekokushi returned to the well, the woman was sobbing. He asked her what was wrong and she cried, "While I was washing my hair, my kimono has gone missing. Now, I cannot return home." Dekokushi invited her, saying, "You can wear my clothes until your kimono is found. My home is close by, you can rest there."

From that day on, the two lived happily and, eventually, had children. One day, the woman heard a nursery rhyme that some children were singing and learned where her kimono had been hidden. She found her kimono and put it on, then softly drifted up into the sky going higher and higher into the heavens. The children and people of the village saw this and chased after her yelling, "There, she goes! There, she goes!" The woman is said to have disappeared around Kubadou in Yonabaru. Even today, people tell of an ornamental hairpin which the woman dropped at Usukuga well.

ウサンシー伝説【与那覇(よなは)】

ウサンシー(穂作根子)は気品の高い若者でした。ある日、与那久浜(よなくはま)でかもじ(女性の髪に添えつける髪)を拾い、持ち主を捜していました。現れた持ち主はとても美しいお姫様でした。姫はと喜んでウサンシーを善人だとほめ竜宮へ招きます。竜宮では時の立つのも忘れるほど厚いもてなしを受けました。

3ヵ月が過ぎた頃ウサンシーは帰ろうと思立ちました。竜宮の神は「すでに三十三代という時間が経っている、ここで楽しんだらよかろう」と止めましたが、彼は故郷が忘れがたく帰る事になりました。姫は名残を惜んで「この紙包みを私と思い持ち帰ってどんな事があっても開けないでください」と手渡しました。

故郷に帰ったウサンシーを知る者はやはりいません。一人寂しく村の前の丘に登って行きました。そして姫からもらった紙包みを開けると中には白髪が入っていました。それがウサンシーの体につくとウサンシーは急に老化し死んでしまいました。ウサンシーはその場所に葬られ、その場所はウサン嶽(だき)と名付けられました。

この話は浦島太郎伝説に似た伝説として知られています。

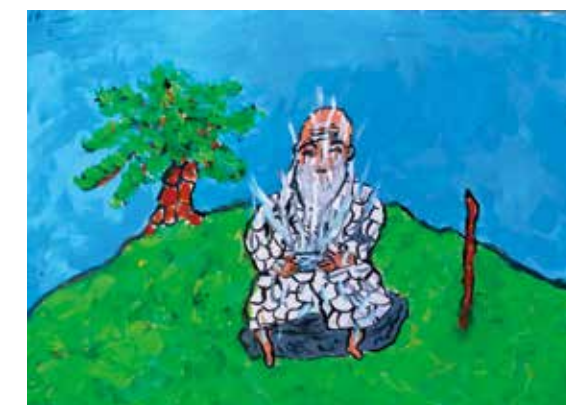
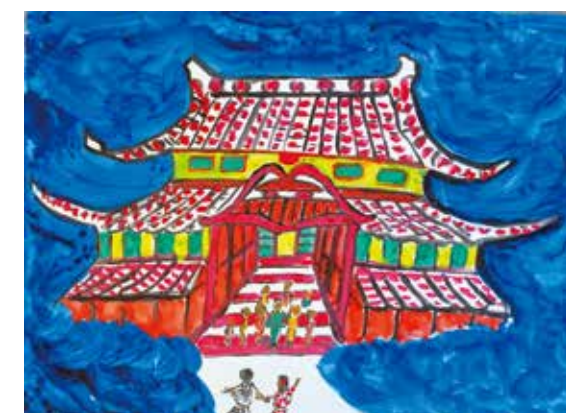
Legend of Urashima【Yonaha】

The legend of Urashima, which is rare in Okinawa, is still preserved in Yonaha.

Usanshi was a dignified and refined young man. One day, at Yonakubama beach, he picked up a hairpiece and sought to return it to its rightful owner, who, it turned out, was a very beautiful princess. The princess was very happy and praised Usanshi as a virtuous person and invited him to the Dragon Palace. At the palace, Usanshi received such a lavish welcome that he lost track of time.

Around three months later, it occurred to Usanshi that he wanted to return home. The god of the Dragon Palace stopped him, saying, "Thirty-three generations have already passed. Why not stay here and have fun?" However, he had never forgotten his home and decided to go back. The Princess reluctantly bid him farewell and handed him a package, "Please take this package home as a souvenir of me, but be sure that you never open it, no matter what."

When Usanshi returned home, there was no one he knew and no one who knew him. Alone and sad, he climbed a hill in front of the village. On the hill, he opened the package he had received from the Princess. Inside was a lock of white hair. When the hair touched his body, Usanshi suddenly grew old and died. He was buried at that same place, which came to be called Usandaki.



ウサン嶽

「穂作根子(ウサンシー)の墓」と刻まれた墓標と香炉が納められた祠。海に面しない南風原になぜか浦島太郎伝説と似た伝説があるのは興味深い。



あらかき まさひろ (与那覇出身) 新垣 正宏 さん

子どもの頃、近所に「紙芝居」屋さんがあると胸をワクワクさせて見ていたという新垣さん。あの光景が忘れられず、自分でも紙芝居を作ってみようと思立ち、南風原の歴史や民話を調べ絵も独学で学びながら紙芝居を作ったといひます。

「民話の中には町や村の成り立ちや人々の暮らし、山・川・海等の地理的な情報からその土地の歴史的背景が見えてくるんです」と話す新垣さん。今では学校や自治会からの公演依頼が増え、何よりも驚くのは「子どもと一緒に大人も目をキラキラさせて紙芝居を見てくれます。そう!私が子どもの頃見た光景が昔と変わらず残っているんです」とうれいそうな表情で話してくれました。



読み上げは標準語版と子ども達に沖縄方言を守り伝える事も意識してウチナーグチ版も用意している。

南風原新伝説

飛勇人(ヒュート)

2013年に「第一回はえるんフェスティバル」でデビューした南風原町の新しいヒーローたちです。6体それぞれが、南風原町の偉人や民話をもとにしたキャラクターです。町内のイベントでヒーローショーを演じたり、小学校を訪れて「うちなーぐち教室」を開くなど、子供たちを元気づけ沖縄の文化を伝えるため活躍しています。



飛勇人(ヒュート)「飛び安里のお話」津嘉山琉球王朝時代に空を飛んだ偉人「飛び安里」をモデルにしたヒーローです。

ビレア姫「羽衣伝説」高城天女(はこまき)をまもって空から降りてきた天女(てんによ)をイメージしたヒロインです。

ユクツナ様「鶴岡大屋伝説」巨大な亀を捕まえた鶴岡大屋(ユクツナ)の物語から生まれました。

アダンマー「アダンの家の民話」神里南風原町の昔話アダンの実(あだん)にちなんでキヤクラー「悪魔の女ホス」です。

サメフラザリス「サメの歯の発見」黄金糸から発掘されたサメの歯の発見をもとにした悪役キャラクターです。

アダンマー「アダンの家の民話」神里南風原町の昔話アダンの実(あだん)にちなんでキヤクラー「悪魔の女ホス」です。

サメフラザリス「サメの歯の発見」黄金糸から発掘されたサメの歯の発見をもとにした悪役キャラクターです。

アダンマー「アダンの家の民話」神里南風原町の昔話アダンの実(あだん)にちなんでキヤクラー「悪魔の女ホス」です。

サメフラザリス「サメの歯の発見」黄金糸から発掘されたサメの歯の発見をもとにした悪役キャラクターです。

■ヒュートに関するお問い合わせ 南風原文化センター ☎098-889-7399